

# 公益社団法人日本獣医師会における 薬剤耐性（AMR）対策の取組

平成29年10月23日

公益社団法人 日本獣医師会

専務理事 境 政 人

## 1 獣医師の就業分野

獣医師として、約39,100人が免許を保有

うち、○小動物（犬・猫など）診療に約15,200人（39%）

○産業動物（家畜・家きん）診療に約4,300人（11%）

○公務員（家畜衛生獣医師、公衆衛生獣医師など）に約9,500人（24%）

○その他の分野（大学、製薬会社など）に約5,600人（14%）

○獣医師として活動していない者は約4,600人（12%）

## 2 日本獣医師会の活動

- (1) 日本獣医師会は、獣医師及び獣医療に対する社会的要請を踏まえ、国民生活の安全保障、動物関連産業界の発展による社会経済の安定、更には、地球環境の保全に寄与することを目的に、「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」を活動の理念として、国民及び地域社会の理解と信頼の下で、獣医師会活動を推進（「獣医師会活動指針」より抜粋）
- (2) 具体的には、①獣医学術、②産業動物臨床、③小動物臨床、④家畜衛生、⑤公衆衛生、⑥動物福祉・愛護、⑦野生動物対策などの広範な分野において、課題への対応方策の検討及び解決に向けた活動を実施
- (3) **特に、薬剤耐性対策については、獣医療において抗菌剤の慎重使用の徹底に主体的役割を担う獣医師が組織する公益法人として、①獣医学術、②産業動物臨床、③小動物臨床分野を中心に率先して対応**

## 3 日本獣医師会における薬剤耐性対策

### （1）農林水産省通知の地方獣医師会への周知

- ① 「薬剤耐性対策行動計画の周知と動物用抗菌性物質製剤の慎重使用の徹底について（通知）」  
（平成28年11月17日付け地方獣医師会会長宛）
  - 我が国のアクションプランの周知徹底と抗菌剤の慎重使用の徹底の一層の推進
- ② 「愛玩動物医療分野における薬剤耐性対策について」（平成28年11月17日付け地方獣医師会会長宛）
  - 愛玩動物分野での薬剤耐性菌の動向調査・監視、抗菌剤の慎重使用等の薬剤耐性対策について周知

### （2）日本獣医師会機関誌による普及啓発・教育

日本獣医師会雑誌（月刊）における薬剤耐性解説論文の連載  
（平成28年6号、9号～毎月連載中）

- 農林水産省の協力により、「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」の解説、薬剤耐性対策や薬剤耐性菌モニタリングの取組、各種抗菌剤の解説等を長期連載中



日本獣医師会雑誌

### （3）部会委員会における報告及び検討

- ① 産業動物臨床・家畜共済委員会における検討・報告
  - ア 平成28年度第1回産業動物臨床・家畜共済委員会（平成28年12月開催）  
「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」について
  - イ 委員会報告書「産業動物獣医療提供体制の整備に向けて」の別添1「農場管理獣医師の在り方と今後の課題」（平成29年6月）
    - 「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」を踏まえた抗菌剤ごとのリスク評価に基づく使用方法の見直し、慎重使用ガイドラインのさらなる普及・徹底等
- ② 小動物臨床委員会における検討・報告
  - ア 平成28年度第1回小動物臨床委員会（平成28年11月22日開催）
    - 「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」について
  - イ “One Health” 推進特別委員会・薬剤耐性（AMR）対策推進検討委員会の設置（平成29年9月）
    - 小動物臨床分野におけるAMR対策についての検討

※農場管理獣医師：農場のかかりつけ獣医師

※

## （４）学術学会、シンポジウム等

### ① 第2回世界獣医師会-世界医師会“One Health”に関する国際会議【福岡県北九州市】

－ “One Health” 概念から実践へ－

（平成28年11月10日・11日、世界獣医師会、世界医師会、日本医師会、日本獣医師会主催）

→ 31カ国から 639名の参加者

○ 「薬剤耐性（AMR）対策」（平成28年11月11日、厚生労働省主催）

・ ノーベル化学賞受賞者田中耕一氏による基調講演の後、2日間にわたって、薬剤耐性対策、日本科学未来館館長の毛利 衛氏による県民公開講座を含む6つのセッションが開催され、22の講演が行われた。

・ 国際会議の成果としての「福岡宣言」が満場一致で採択された。

福岡宣言抜粋：

「医師と獣医師は、人と動物の医療において重要な抗菌剤の責任ある使用のため、協力関係を強化する。」

### ② 獣医学術学会年次大会【石川】（平成29年2月26日、日本小動物獣医学会）

○ 教育講演「耐性菌を考える」

・ 我が国の薬剤耐性（AMR）対策アクションプランについて

・ 呼吸器・泌尿器・消化器・皮膚疾患における耐性菌について

### ③ ワンヘルスに関する連携シンポジウム － 薬剤耐性（AMR）対策 －

（平成29年11月27日開催予定、厚生労働省主催、農林水産省、日本医師会、日本獣医師会共催予定）



獣医学術学会年次大会

第2回 世界獣医師会-世界医師会 “OneHealth” に関する国際会議

# 福岡宣言

人類は、地球上の全ての生命に配慮し、地球環境を健全に維持する責任を担っている。医師と獣医師は、科学的知識を持ち、専門的貢献を受け、法に定められた義務を遂行するとともに、人と動物の健康と福祉の維持に係る幅広い活動分野において業務に携わる機会と責任を有している。

2012年10月、世界獣医師会と世界医師会は、“Global Health”の向上のため、また、人と動物の共通感染症への対応、責任ある抗菌剤の使用、教育、臨床及び公衆衛生に係る協力体制を強化するため、両者が連携し、一体となって取り組むことを合意し、覚書を取り交わした。

2013年11月、日本医師会と日本獣医師会は、健康で安全な社会を構築するため、医療及び獣医療の発展に関する学術情報を共有し、連携・共同することを同意し、協定書を取り交わした。更に、日本医師会と日本獣医師会は、2011年3月に発生した東日本大震災における教訓を踏まえ、感染症、自然災害などの危機に対し備えることは勿論、医師と獣医師との連携の強化がいかに大切であるかという点についても意見の一致を見た。この協定書締結は、日本全国の地域医師会と地方獣医師会においても達成された。

2016年11月、世界獣医師会、世界医師会、日本医師会、日本獣医師会の4者は、2015年、スペインのマドリッドで開催された第1回“One Health”に関する国際会議に続いて、第2回目の国際会議を日本で開催した。

医師と獣医師は、世界各地からこの福岡の地に集い、人と動物の共通感染症、薬剤耐性対策等を含む“One Health”に関する重要な課題について情報交換と有効な対策の検討を行い、評価すべき成果を取った。

我々は本会議の成果を踏まえ、“One Health”の概念を検証し、認識する段階から、“One Health”の概念に基づき行動し、実践する段階に進むことを決意し、以下のとおり宣言する。

1. 医師と獣医師は、人と動物の共通感染症予防のための情報交換を促進し、協力関係を強化すると共に、その研究体制の整備に向け、一層の連携・協力を図る。
2. 医師と獣医師は、人と動物の医療において重要な抗菌剤の責任ある使用のため、協力関係を強化する。
3. 医師と獣医師は、“One Health”の概念の理解と実践を含む医学教育および獣医学教育の改善・整備を図る活動を支援する。
4. 医師と獣医師は、健康で安全な社会の構築に係る全ての課題解決のために両者の交流を促進し、協力関係を強化する。

World Veterinary Association

Representative

  
Johnson Ching, President

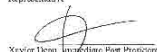
Japan Medical Association

Representative

  
Yoshitake Yoshitake, President


World Medical Association

Representative

  
Xavier Denis, Immediate Past President

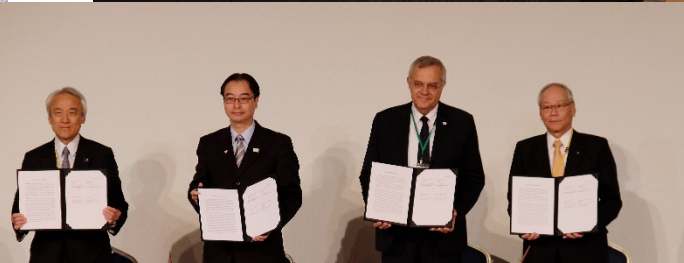
Japan Veterinary Medical Association

Representative

  
Iwano Kurouchi, President



平成28年11月11日福岡県北九州市において開印。  
写真左から、磯内勇夫 日本獣医師会会長、ジョンソン・チャン 世界獣医師会次期会長、ズビェスワ・ドゥー 世界医師会元会長、柳倉徳武 日本医師会会長。



世界獣医師会、世界医師会、  
日本医師会及び日本獣医師会の  
4者による「福岡宣言」の調印。  
(2016.11.11 福岡県北九州市)

## （5）国際研修

アジア地域獣医師総合研修事業（平成29年度から開始）

- アジア12カ国※の獣医師を対象に、12獣医系大学（平成29年度）※※の協力の下で薬剤耐性対策の取組を含めて研修を実施中

※12カ国：台湾、マレーシア、スリランカ、中国、ネパール、韓国、フィリピン、アフガニスタン、インドネシア、ベトナム、モンゴル、タイ

※※平成29年度の実施予定大学：北海道大学、帯広畜産大学、岩手大学、東京大学、東京農工大学、山口大学、宮崎大学、鹿児島大学、大阪府立大学、酪農学園大学、日本大学、麻布大学



## （6）会員団体の取組

### 第1回薬剤耐性対策普及啓発活動表彰 「薬剤耐性へらそう！」応援大使賞受賞

- さっぽろ獣医師会 小動物診療施設におけるMRSAの低減化

- ・ 小動物診療施設におけるMRSAの疫学調査を行い、その結果に基づき、

「動物病院におけるMRSA院内感染対策マニュアル」を作成(2010年)、改訂第2版(2017年)

- ・ 関係者約100名を対象に講習会を2回開催 ・ 医療系の専門家を招聘してセミナーを開催

- ・ 今後の方向性 → 講習会の開催等による普及・啓発、必要に応じたマニュアルの再改訂、全国への成果の普及、“One Health”の概念に基づく医療との連携 など



## 4 今後の取組

- 小動物及び産業動物の臨床獣医師を対象とした薬剤耐性に関する研修会、講習会等の開催及び情報提供の一層の充実

### 【重点的に取り扱うテーマ】

- (1) 薬剤感受性試験※の実施による有効な薬剤の選択など、抗菌剤の慎重使用のより一層の徹底

※薬剤感受性試験：病原微生物に最も有効な抗菌剤を選択するための試験

- (2) 薬剤耐性（AMR）対策検討委員会の検討を踏まえた、犬、猫などの小動物臨床現場における抗菌剤の慎重使用や薬剤耐性モニタリングへの積極的な協力・関与